

## 編集後記

ウクライナでの戦争が継続しています。日本という国の在り方を、政治家や識者の方々がしっかりと示していただき、国民の一人一人が国と国民の安全を考える大事な時期ではないかと思う次第です。

誌上ギャラリーは平田宗興先生の「水の季節」です。蓮の葉上を移ろう水を見事に捉えた感激の一瞬です。

論説と話題は、鹿児島大学 西順一郎教授の「オミクロン株出現後のCOVID-19の現状と展望」です。疫学、伝播状況、感染対策、検査、治療とワクチンの詳細な説明と、今後の対策についての寄稿です。非常に参考になりました。

鹿児島大学の3人の新教授、生体情報薬理学分野 佐藤達雄教授、医歯学教育開発センター 社会・行動医学講座 医歯学教育学分野 横尾英孝教授、脳神経外科学分野花谷亮典教授から就任の挨拶をいただきました。大学からのご指導を宜しくお願いします。鹿児島市医師会病院院長退任の挨拶を園田健先生から、大迫政彦先生から院長就任の挨拶をいただきました。園田先生は医師会病院開設時から勤務され、本当に有難うございました。

医療トピックス“くすり一口メモ”は、鹿児島市医師会病院薬剤部 高橋武士先生から「アセトアミノフェンを含有する医薬用医薬品について」です。投与量の参考にさせていただきます。

学術は、鹿児島市医師会病院消化器内科の山下芳恵先生から「肝機能障害で発症し

薬物性肝障害と鑑別を要した赤芽球性プロトポルフィリン症の一例」、琉球大学益崎裕章先生から令和3年度鹿児島市内科医会例会特別講演「食・運動・マインドを変える！寛解（Remission）を見据えた2型糖尿病診療」のダイジェストを、鹿児島市外科医会春季例会症例検討会で発表された6人の先生方から症例報告をいただきました。

切手が語る医学「救急医療」は、古庄弘典先生の連載です。栗 博志先生からは、フランス・リストと聖エリザベト - 第1部の続編です。

リレー随筆は、県立大島病院循環器内科古藤聰一先生より「ドクターコトーの研修医生活」を投稿していただきました。医師3年目の立場から初期研修医時代を振り返っていただきました。

各種部会だよりは、鹿児島市内科医会3月例会と鹿児島市外科医会春季例会の報告です。

各種報告は、理事会の概要、委員会報告、第1回支部長会の報告です。

附属施設だよりは、医師会病院、検査センターの実績です。

鹿市医郷壇はの題吟は「精一杯（せっぺ）」です。多数の投稿有難うございました。今後も宜しくお願いします。

梅雨前の夏空は、ウクライナの空と繋がっています。戦争の終結と新型コロナウイルス感染症の早期収束を祈念いたしております。

（編集委員長 帆北 修一）